生涯学習課

市民会館のこけら落とし

庄原市民会館リニューアルオープン記念フェスティバル

5月28日、庄原市民会館で、大ホールの開館を記念する「庄原市民会館リニューアルオープン記念フェスティバル」を開催し、約750人が来場しました。

大ホールでのステージイベントでは、県立広島大学や市内の各地域で活動している団体が出演し、よさこい踊りや和太鼓・吹奏楽の演奏、合唱、ダンスなどを披露。庄原市ふるさと大使・庄原市ジビエ大使の西田篤史さんと、同じく庄原市ジビエ大使の松本裕見子さんの2人が、ユーモアたっぷりの司会進行で盛り上げました。

また、特別出演としてものまねタレントの松村邦洋さんと西田さん、松本さんによるトークショーが行われ、松村さんのものまねと持ち前のトーク力で、ホールは来場者の笑いで溢れました。

ロビーと屋外では、バザーコーナーやキッズコーナーも設置され、比婆牛焼肉、ジビエ料理などの食事を楽しむ人や、絵本、折り紙、ブロック遊びを楽しむ親子など、思い思いにイベントを楽しんでいる様子が見られました。

ステージイベントの様子(庄原永江太鼓)

西田さん(左)、松村さん(中央)、松本さんのトークショー

Camera Report
カメラレポート

●市内のイベントやまちの話題をお届けします。　行政管理課広報統計係　☎0824-73-1159／Fax0824-72-3322

10周年に感謝！

No.1

道の駅たかの10周年大感謝祭・6/3～4

道の駅たかので、同施設の開業10周年を記念した大感謝祭が開催され、２日間で約１万５千人が来場しました。

初日のオープニングでは、紅白餅まきが行われた後、関係者による記念植樹が行われ、敷地内の芝生スペースに市の花であるサクラを植え込みました。

会場では、広島県ご当地ヒーローの「安芸戦士メープルカイザー」のショーや、広島県警察音楽隊のコンサートなど、盛り沢山のステージイベントが２日間にわたって行われ、子どもから大人までイベントを楽しみました。

敷地内には、市内出荷者や県内外「道の駅」の販売ブース、除雪車やパトカーなどの働く乗り物コーナーが設けられ、多くの人でにぎわいました。

出荷者協議会の青才竜二会長は「特産品づくりに取り組んできた中、G7広島サミットで比婆牛やりんごジュースなどの庄原産食材が提供されたのは誇らしいこと。これからも、道の駅を拠点に農産物を通して多くの人と交流を深めていきたい」と話しました。

▲メープルカイザーのヒーローショー

▲広島県警察音楽隊の演奏

▲働く乗り物コーナー

▲にぎわう店内

登山シーズンが到来！

比婆山山開き・5/28　吾妻山山開き・6/4　No.2

本格的な夏山シーズン到来を前に、登山の安全を祈願する山開きが、比婆山と吾妻山でそれぞれ開催されました。

「比婆山山開き」では、古くから続く神事「比婆山夏山祈願祭」をはじめ、西城町神楽愛好会による神楽の奉納、地元バンドの演奏、ヒバゴンとのじゃんけん大会などが行われました。また、「比婆牛」を使用した限定弁当のほか、ゴギの塩焼きやどぶろくなど、西城ならではの美味しいグルメも提供され、会場は多くの来場者でにぎわいました。

さらに、当日は「比婆山国際スカイラン」も同時開催され、選手は新緑のブナの森を駆け抜けました。選手は、「きれいに整備された登山道のコースで、景色に癒やされながら気持ちよく走れた」と話しました。

「吾妻山山開き」では、広島県指定無形民俗文化財の「比婆斎庭（さにわ）神楽」が奉納され、貴重な神楽を一目見ようと、神楽ファンや登山客が訪れました。

会場では、比和産品のプレゼントや販売、米すくいなどのイベントも行われ、来場者は「吾妻山の自然の中で食べた、ごはんやヤマメの塩焼きは格別だった」と満足そうに話しました。

また、比和自然科学博物館主催の「吾妻山の草花ウオッチング」が同時開催され、参加者はアカモノやタニウツギをはじめとした貴重な植物を観察しました。

▲コースを駆け抜ける選手（比婆山山開き 比婆山国際スカイラン）

▲神楽を鑑賞する来場者（吾妻山山開き）

爽やかな緑の中でウオーキング

帝釈峡新緑！ウオーク・6/10　No.4

国の名勝指定100年・国定公園指定60年を記念し、帝釈自治振興区と新坂自治振興区が主催する、「帝釈峡深緑！ウオーク」が開催されました。

当日は、休暇村帝釈峡から帝釈川ダムまでを歩く、往復約6.5キロの「帝釈川ダム探訪コース」と、帝釈第一駐車場から素麺（そうめん）滝までを歩く、往復約5.5キロの「帝釈川雄橋清流コース」の２コースで開催され、合わせて100人が参加しました。

帝釈川ダム探訪コースでは、参加者がダム管理所の職員から説明を聞いた後、岸壁の回廊を通り、ダムの上に到着。100年前の完成当時「日本で最も高い」と言われた帝釈川ダムからの、普段はなかなか見られない眺めを楽しみました。

▲ダムへ降りる参加者

田植えの「今」と「昔」を体験

総領小学校田植え体験・5/25　No.3

総領小３・４年生10人が、毎年恒例となっている田植え体験に参加しました。

最初に、児童は最新のＧＰＳが搭載された田植え機を体験。８条植えの大きな田植え機が自動で動き、あっという間に作業が進んでいく様子に、驚いている様子でした。

続く、手植え体験では、裸足で田んぼに入り「気持ちいい」「冷たい」「カエルがいた！」などと、田んぼの泥や生き物に触れながら、少しずつ苗を植えていきました。

秋には、収穫体験も行われる予定で、児童は「一生懸命植えたので、お米がたくさんできてほしい」と苗の生長を楽しみにしていました。

▲一列になり苗を植える児童

比和の歴史・文化が評価

「夢街道ルネサンス」認定証授与式・6/4　No.6

比和全域が、「水源霊域（れいいき）・比和ゆめ街道」として「夢街道ルネサンス」に認定され、認定証授与式がかさべるでで行われました。夢街道ルネサンスは、歴史や文化を今に伝える中国地方の街道を認定地区として、夢街道ルネサンス推進会議が認定しています。

比和は、古代から出雲への往来路があり、宿場町として発展してきたほか、カンナ流しで作られた棚田が見られ、比和牛供養田植などの文化が伝えられています。これらの伝承活動を、地域ぐるみで行ってきたことが評価され、今回の認定となりました。

当日は、比和ゆめ街道ネットワークの若林隆志（わかばやしたかし）代表に認定証が授与され、会場は喜びで包まれました。

▲認定証授与式を終え記念撮影

100周年を前ににぎわう駅前

第20回庄原駅前フェスタ・5/27　No.5

本年12月８日に開業100周年を迎える備後庄原駅周辺で、庄原駅周辺地区まちづくり協議会主催の「庄原駅前フェスタ」が開催されました。

庄原駅前フェスタは、備後庄原駅周辺のにぎわい創出のため年２回開催され、今回で20回を迎えました。

当日は、駅前公園で庄原幼稚園や庄原中学校吹奏楽部などによる発表が行われました。また、会場には鉄道おもちゃ展、働く乗り物コーナー、鉄道グッズの販売などもあり、親子連れをはじめたくさんの来場者でにぎわいました。

同協議会では、今後も駅周辺を盛り上げていくため、さまざまなイベントを実施する予定です。

▲庄原幼稚園園児の発表

認知症を知ってもらう

「ロバ隊長」のぬいぐるみを作成　No.8

「認知症サポーターキャラバン」のマスコット「ロバ隊長」のぬいぐるみが、市内有志の７人により作成されました。ロバ隊長には、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの実現のため、「ロバのように急がず、しかし一歩一歩着実に進んでいこう」という意味が込められています。

今回は、梶川美智子（かじかわみちこ）さん、栗原辰枝（くりはらたつえ）さん、田丸秀子（たまるひでこ）さん、原田瑞子（はらだみずこ）さん、廣谷孝子（ひろたにたかこ）さん、福永比登美（ふくながひとみ）さん、藤綱瑞枝（ふじつなみずえ）さんが、15体のぬいぐるみを作成しました。

完成したぬいぐるみは、高齢者福祉課や各支所、認知症に関する図書の巡回展示などに設置し、認知症について興味を持ってもらうきっかけとして活用されています。

▲完成したぬいぐるみ

▲庄原中学校での巡回展示

ヒバゴンの証拠！？をお披露目

ヒバゴンの足跡石膏型お披露目会・5/26　No.7

備後西城駅で、ヒバゴンの足跡石膏型のお披露目会が開催されました。このイベントは、これまで庄原警察署に保管されてた足跡石膏型が、このたび西城町観光協会へ寄贈されたことを記念し開催されました。

ヒバゴンの足跡は、縦21センチ、幅13センチで、プレートに「採取年月日 昭和45年12月16日」「採取場所 比和町 吾妻山 池の原雪中」と刻まれています。

当日は、ＵＭＡ研究家の中沢健（なかざわたけし）さんをゲストに迎え、ヒバゴンが目撃された当時の西城町役場類人猿相談係の恵木剋行（えぎかつゆき）さん、神戸大学探検部長として現地を調査した大磯（おおいそ）ユタカさんによるトークショーが行われました。観覧者は「思ったより小さな足跡で驚いた。ヒバゴンでまた地域がにぎわってほしい」と話しました。

▲当時の様子を話す恵木さん（左）と中沢さん（中央）、大磯さん